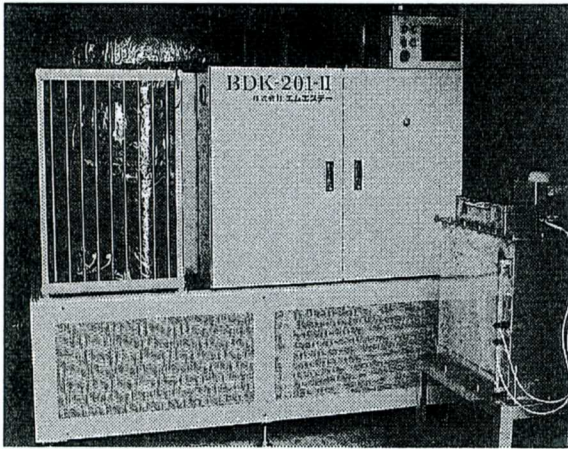


# BDF実用化へ前進

第一貨物

## 新生成装置を導入



新型のBDF生成装置

第一貨物（本社・山形市、武藤幸規社長）は天ぷら油など廃食油を利用して走るBDF（バイオディーゼル燃料）トラックの実用化に向け取り組んでいる。ことし一月に新たに導入したBDF生成装置により、課題だったBDFの品質確保に一定のめどをつけた。（矢田 健一郎）

現在、月千以上の廃食油をもっと増やし、燃料二ば屋やホテル、県下の温泉旅館などにも協力を要請。「まずは月二千以上程度に増やし、将来的には月四千以上を目標に据える（渡辺主査）。

〇〇〇

第一貨物では平成十六年に初めてBDF生成装置を導入し、市街地を回る集配車数台の燃料をBDFに切り替えた。その後二十年に品確法（揮発油等の品質の確保等に関する法律）が改正され、BDFの一層の純度向上が課題となっていた。

BDFの純度  
格段に向上し

今約一千万円を掛けて導入したエムエスティー社製BDF生成装置は、「減圧蒸留」と呼ばれる方法でBDFの純度を格段に高めることができ、品確法に基づき定められたJIS規格にかなう品質を確保。

〇〇〇

「集めた廃食油の質に左右されことなく、高純度のBDFを生成することが可能になった（渡辺主査）。一回二百以上、月間で四千以上を生成できる。

高純度BDFの生成が可能となったことで、品質確保には一定のめどをつけた。「今後は品質の安定と廃食油の収集量拡大を図り、BDF実用化に向けた取り組みを一層推し進めていく（同）。